

# 津南町保育園環境整備のための検討会

## 報告書

令和6年11月

津南町保育園環境整備のための検討会

## 津南町保育園環境整備のための検討会報告書

### 1 はじめに

こども・子育てをめぐる状況として、出生数の減少及び乳児保育の需要がある。津南町ではその対応として、混合保育に取り組んできた。しかしながら、近年のさらなる出生数の減少は、混合保育の対応に限界が生じるようになってきている。未満児に対応できる保育環境の不足や早朝・延長保育、土曜日曜保育、地域子育て支援ができる保育環境整備が課題となっている。

また、保育士確保の困難さもあり、保育士育成の課題にもつながっている。

以上の現状を踏まえ課題の解決を図るために、町では現ひまわり保育園の増築工事後を機に既存の5保育園を1園に統合する以下の方針を出した。

○場所：現ひまわり保育園を活用し、旧園庭・ひまわり公園跡地に増設園舎を建設する。

○定員規模：今後の出生数を踏まえ、定員130人から140人程度を想定する。

○子育て支援センターの併設：現ひまわり保育園の1階を子育て支援センターとして活用し、保育と子育て支援の連携・協働の体制を構築する。

これにあたって、これまでの整備計画を踏まえながら、目指す保育方針及び必要とする保育園、子育て支援センターの施設・設備、保育環境整備等について検討する場として、2024年9月に津南町保育園環境整備のための検討会（以下「検討会」という。）が立ち上げられた。

本検討会では、津南町の方針を踏まえ、町の目指す保育方針、保育園として必要な機能、そのために必要な施設関係及び設備関係、報告書のまとめ方について協議を行った。

ここにその検討の結果を報告する。

### 2 つなんのみらい保育方針（保育ビジョン）の検討

津南町では、自分で自分の生き方を切り拓く「強くてやさしい子」を目指し、育ネットつなんの組織的な子育て支援の取組を行っている。保育においてもこの目指すこどもの姿に向かって取組を進めている。

津南町は、身近に自然豊かな環境があり、この良さを生かし、これまでも遊びの中で五感を働かせ、「直接体験」を中心とした豊かな感性を育てる保育の展開を大切にしてきた。一方で、日常生活の中では自然体験が減少しており、身近な自然環境を生かした自然体験・原体験を意図的、積極的に保育環境や保育の中で取り組む必要がある。今後もこれまでの取組を発展させながらこどもの生きる力を伸ばし、人間形成を図り、一人ひとりのよりよい成長に繋げるとともに、子育て支援の多機能化等を図る必要がある。また、今後の子育てをめぐる社会は、こどもの育ちを支える保育環境の実現（集約化）、住民の子育てニーズに応じた支援の充実（多機能化）、町全体でこどもを育む体制づくり（拠点化）を図りながら幼児期までのこども子育て拠点としての保育園の整備が望まれ

る。さらに、こどものいる保育園を中心に置き、保護者、地域住民、自然などの津南の特色を生かし、子育てしやすい町、こどもを育む町づくりを進めて行くことが大切であるとの考えのもと、事務局から「つなんみらい保育方針（保育ビジョン）」の提案がなされた。

この提案を受け、検討会では以下の意見が出された。

- ①津南町が考える3つの「強くてやさしい子」の1つ「自然大好き・津南大好きなこども」を育むための具体的な姿が不明確ではないか。
- ②取組2「環境整備」において、これからの社会の方向や多様な子への支援の必要性からインクルーシブの視点が必要ではないか。

事務局では、この2点について修正し、別紙1「つなんみらい保育方針（保育ビジョン）」としてまとめた。

### 3 今後の保育園環境整備に向けた具体的な内容の検討

検討会では、「つなんみらい保育方針（保育ビジョン）」を踏まえ、保育園の役割を①保育園で行う保育（養護・教育）②保護者への子育て支援、③職員の働き方改善のために必要な対応策や整備内容、④地域子育て支援、⑤公共施設と設定した。

この5つの観点から保育園に必要な機能を出し合い、その機能を果たすために必要な施設と設備を話し合った。話し合いは、3グループで協議し、その後全体で意見交換を行う形で行った。出された意見を基に、すべてを網羅することは財政面等の課題もあるため、「必要とする施設・設備」「可能であれば設けたい施設・設備」に分けて再度検討し、優先順位を付けた。

以下に、検討会で出された主な意見について記述する。なお、今後の整備における具体的な内容の補足資料として、別紙2「津南町保育園環境整備における具体的な内容の提言」を添付する。

#### (1) 施設面

##### ①保育（養護・教育）の機能から

事務局から本整備において、3・4・5歳児は現ひまわり保育園2階保育室を基本的に活用し、2階部分の増設も踏まえ未満児保育環境が不十分であるため、その点を基本とした整備を行いたいことの説明があり、そのことを受け協議した。

##### ア 保育室

保育園は、こどもを保育（養護・教育）することが主となる施設であることから、こども・保育士等が安全・安心に過ごすことができる、未満児に対応した保育ができる、遊びを継続できる、ゆとりができる、多様なクラス編成ができる、感染症対応ができるといったこどものことを考えた機能や保育士の立場を考えた意見が出された。

その上で、必要な施設・設備として、0・1歳児室（乳児室・ほふく室）各1室、2歳児室1室、調乳室、授乳室、沐浴室、おむつ替え室、医務室の具体的な意見が出され必要であるとした。未満児室の広さは基準より広めであること、各部屋は可動式の壁及び人数や保育の仕方に合わせて区分けできる配慮が必要であること、未満児室には床暖房等を設置すべきとした。可能であればシャワー室に着替えスペースを設置とした。

0・1・2歳児室の広さについては、0・1歳児室は約87.5㎡各1室、2歳児室は約62.5㎡1室で仕切り（可動式壁等）を望むとした。他の部屋の広さについては、様々な部屋の配置により判断すべきとした。

また、3～5歳児も活用できるゆとりの保育室や遊び込める部屋として多目的保育室の必要性が出された。広さや活用方法の議論では、2室案や1室としフリールーム（仮称）や人数や活動に応じて柔軟な対応ができるように可動式の壁や行き来できる出入り口を設ける案が出されたが、フリールームの活用目的（下記に記載）を踏まえ、多目的室（可動式壁あり）1室としフリールームは別に設置すべきとした。

多目的室の広さについては、約130㎡1室で仕切り（可動式壁等）を望むとした。

また、フリールームは、こどもが気持ちを落ち着かせることができる、特別な支援の必要なこどもや障がいのあるこどもへの個別支援の配慮も含め、クールダウンなどができる部屋として必要であるとした。

フリールームの広さについては、様々な部屋の配置により判断すべきとした。

この他に、園児の活動に配慮した意見として、絵本等にふれることができる、園児の活動場所が確保できるなどの提案があり、園児用ロッカー、布団・遊具等の収納スペース、教材室、倉庫の必要性、新園舎にも4・5歳児が入れる保育室設置等の意見もあったが、この点については設計において部屋の配置により変わる点から設計時に検討すべきとした。図書・読書スペースは必要であり、施設全体の運用の仕方の中で配置を工夫すべきとした。

施設以外にも、いじめの早期発見、孤立しないように、非認知能力を意識した保育といった実際の保育現場での保育の仕方にかかわる貴重な提言も出された。このことについては、保育を行う際に大切にすべき視点として、事務局に提示する。

## イ ホール

事務局から現ひまわり保育園の遊戯室（ホール）は、近年の熱中症への対応として空調設備を整備し活用したいとの説明を踏まえ協議した。

保育内容や行事に合わせて使うことができる施設の提案があり、未満児及び多目的に使える小ホール（0・1歳児のプレースペースを兼ねる部屋）は必要であるとした。

広さは、収納スペースを兼ねて活動できる面積を確保し、約60～110㎡程度を望む

とした。

#### ウ トイレ

感染対策ができることを基本に意見が出され、保育室やおむつ交換室との位置関係も踏まえ、こどもと保育士が使いやすい配慮の必要性があげられた。その上で、男女用の幼児用便器、年齢児に応じたトイレ、職員用男女別トイレ、感染症専用トイレを設置すべきとした。3～5歳児のトイレについては、現トイレも使用するが便器の数が不足していることから、新園舎2階にも新たに設置し、園児が使用する際に支障が出ない数を確保する必要があるとした。

#### エ 園庭及び外構

保育ビジョンに示されているこどもたちの主体的な遊びを実現するために、自然を感じるができる、安全・安心に遊ぶことができる、遊び込むことができるなどのワクワクできる環境・遊び場を望む声が多く出された。具体的には、自然豊かな園庭（林のある園庭）と未満児専用の園庭を設置すべきとした。可能であれば園庭の一部（未満児専用園庭）芝生化と小川やビオトープは維持管理を踏まえ検討することを望むとした。食育や自然体験の視点から園庭で野菜等を栽培できる畑を確保し地域と管理の仕組みも検討すること、プールは現在使えるものは活用すべきとした。

また、衛生面から外遊び後の汚れを落とすために、温水シャワー室の設置と外部から見えない配慮が必要であるとした。

#### オ 給食室

事務局からは、現在の給食室は定員120人想定であり、今後園児数が130～140人規模となった場合、職員数を含めると最大で約210食程度となること、またアレルギー対応や感染症対応を考え新設したいとの説明があり、そのことを踏まえ議論した。

現給食室の老朽化及び安全・安心な給食を提供するために、環境衛生上の配慮ができる、感染症対策ができる、地産地消の献立を提供ができる施設との意見があった。また、アレルギー対応食の提供において誤った提供にならないように配膳時の動線の確保の意見も出された。

具体的には、調理員等の労働環境整備も含め、調理室、洗浄室、下処理室、検収室、前室（2室）、食品庫、配膳車プール、洗濯室、厨房風除室、厨房事務室、休憩室、厨房トイレ、ごみ庫があげられた。広さについては、設計段階で適正規模となるように十分検討すべきとした。

また、お米の産地ならではの食育の視点と保護者の負担軽減の観点から、主食（米飯）の提供ができる設備が必要であるとした。

## ②保護者支援の機能から

保育園では、保育士と保護者の連携を図ることが重要であることから、個別に面談や相談ができる場所として、相談室の設置が必要であるとした。

通園体制の安全確保等の視点からは、駐車場から園に入る動線の確保、園児入退所玄関、事務室と隣接した玄関が必要であるとした。

一方で、保育サービス及び保護者支援体制に関わる視点から、早朝・延長保育の充実、土曜日曜保育の充実、病児・病後児保育の実施、低年齢からの受け入れ、遠方からの通園や祖父母の送迎に対する配慮などの意見が出された。このことについては、今後の運営面の検討の中で十分検討すべき事項として事務局に提示する。

## ③職員の働き方の視点の機能から

事務局から現ひまわり保育園の1階給食室を改修し、職員の男女別休憩室や更衣室、トイレを設置したいとの説明があり、そのことを踏まえ議論した。

保育を行う保育士が心から笑顔でいられることがよい保育に繋がるとの意見があり、それを踏まえ職員の福利厚生に対応できること、業務改善ができることとして意見が出された。

具体的には、男女別の休憩室・更衣室・トイレは必要であるとした。しかし、現給食室の他の活用方法も検討し、新園舎の部屋の配置により判断すべきとした。

事務室は、職員が集まれる必要な広さと打合せスペース等を確保した1室が必要であるとした。

また、設備として、職員が働き方改善の視点からも今以上に活用しやすいPC・ネット環境・ICTの整備が必要であるとした。

## ④地域子育て支援の機能から

事務局から、現ひまわり保育園の1階部分を子育て支援センターに改修し活用したいとの説明があり、そのことを踏まえ議論した。

子育て支援センターの役割を踏まえた上で、子育て支援への対応ができる、保育園との連携・協働ができる、親子が保育園と交流できる、保護者が安心して相談できる、妊婦や乳幼児が安心して過ごすことができることを踏まえ、別紙3「子育て支援センター関連で出された意見」が出された。その上で、具体的には相談室は必要であり現事務室に1部屋設ける形で内包し、子育て支援室、調乳室、授乳室、広めのトイレ（保護者、男児・女児用、おむつ替え台）が必要であるとした。

利用する保護者等の視点としては、保護者がくつろぎ情報交換できる、子育て講話・学びとなる行事の開催、交流の場等ができる整備を望む意見があり、カフェ併設、サロンのような場所、離乳食実習などができる調理室を望む意見が出された。その上で、現2歳児室は、一時預かりと一時保育や行事の活用が可能であるとし、離乳食実習は保健センター等の活用を検討すべきとした。

保護者の情報交換ができる場として、カフェ併設・サロンのような場所については他の民間施設等の利用が望ましいとの意見、おやつを食べられるスペースについてはアレルギー対応の観点から望ましくないとの意見が出された。これを受けて、子育て支援センターが未就園児の拠点施設として果たす機能を今後の利用者ニーズを考える中で、運用面の工夫も含め検討していくことが望ましいとした。

この他、ベビーカーで入れる玄関は現在のものを活用、屋根のついた入口については可能であればとした。

また、幼児等のいる保護者から町内に雨天時や冬季に親子で気軽に遊べる施設がほしいとの要望があることを踏まえ、その場を保育園建設に含めるべきか検討したが、施設規模や財政面、運用面等の課題があるとし、保育園整備としてではなく別に検討すべきとした。

#### ⑤公共施設の機能から

事務局からは、公共施設であることから脱炭素社会に向けた環境面や持続可能な施設への配慮として地中熱利用の有無、避難所施設としての機能の在り方等についても議論してほしいとの要望があり、そのことを踏まえ議論した。

地中熱利用については、経費の問題、利用効果の課題等から必要ないとした。

一方、環境への対応は必要との意見が出され、こどもの育ちや健康面への影響を考えた上で、公共施設として環境に配慮した施設とすべきとした。

また、設備的な視点から、効率的な冷暖房を考える上で、可能であれば断熱材の有効利用、内装だけ木質（木質感のある内装では採光・照明をしっかりとる）との意見が出された。

災害時の避難所としての機能については、子育て家庭に特化した避難所対応ができる、災害時に乳幼児を中心に家族で過ごすことができる、災害時でもこどもの特性に応じて多様な支援ができる、災害時に乳児を守ることができる、プライバシーへの配慮ができるなど、子育て支援を重視した機能の意見が多く出された。

一方、町防災計画や避難所の在り方とも関連することから、乳幼児やその家族が安心して利用できる必要はあるが、このことはすべての避難所の課題であるとの意見が出された。それを踏まえ、災害時に乳幼児やその家族に対応できる機能を備える必要があるとした。これを受けて具体的には、男女専用のトイレ、備蓄庫（発電機、おむつ、ミルク、お尻ふき、生理用品、水食料、ストーブ、毛布など）は必要であるとした。簡易トイレ・炊事設備については、防災計画と合わせて検討すべき事項とした。

#### ⑥その他

保護者支援にもかかわることとして、雪対策を踏まえ園児の送迎時に安心して送迎できるように、保育園玄関に送迎車が入れる屋根の設置、冬季の雪を考慮した動線、消雪パイプのある駐車場、職員の除雪作業の軽減の必要があるとの意見が出さ

れ検討すべき事項とした。

また、園児の衣服等の汚れや雨天時・冬季の遊び後のぬれた衣服を乾燥させるための洗濯室・乾燥室は必要であるとした。

災害時の安全確保や冬季の避難経路確保のために屋根雪対策については設計段階で十分考慮すべきとした。

園児の遊びの視点からは、保育にかかわることとして秘密基地的なエリア、水の流れのある池、自然のスペースの意見が出されたが可能であればとした。

建築構造については、経費を踏まえ設計時に検討すべきとした。

#### ⑦施設の配置

本検討会では、各施設の配置や間取り等については、一部提言及び要望事項としてあげてあるが、設計時に検討すべきと考え協議したものが多くある。このことを踏まえ、設計段階において現場の職員の意見を踏まえ十分に検討することを要望する。

### (2) 設備面

事務局から以下の設備面についての提案を受け協議を行った。

#### ①空調

コスト面や環境への配慮の必要性はあるが前回の地中熱利用の必要はないとの判断となった。このことから、一般空調を中心に検討し断熱材の有効利用、未満児の必要な部屋に床暖房等を設置すること、その際は感染症対応や衛生面に配慮すべきとした。

#### ②防災・防火設備

災害時対応として、電源確保については最低限の確保ができるように発電機の備蓄の必要があること、防火設備については消防法に適応した設備が必要であること踏まえ、担当課とも協議の上、設計時に判断すべきとした。

#### ③園舎屋根仕様

当町にとっては、冬季の雪対策は重要な課題である。しかし、屋根雪対策は様々な方法がある中で、建築面積や構造、コスト面など総合的に判断しなければ決定できないところである。そのことを踏まえ、設計段階において耐雪、落雪を基準に検討すべきとした。

#### ④ICT 設備

今後の保育士の業務改善や保育の中でのITの活用等も視野に入れ、事務室及び保育室のWi-Fi環境の整備は必要であるとした。

#### ⑤児童保育・管理システム

保育士による園児の登園・降園管理の負担軽減と保護者の利便性からも、園児の登園・降園管理システム導入の必要性は理解された。運用面において、職員の負担、



学校のシステムとの統一性も踏まえ、検討すべきとした。

#### ⑥防犯設備

防犯対策上、防犯カメラと玄関入口電気錠は必須とした。

#### ⑦調理設備

現保育園でも備えている設備として温水給湯設備は必要であり、食育の観点から調理室での調理の様子を園児が見ることができる窓（ライブキッチン）の設備は必要であるとした。

#### ⑧乾燥設備

当地区は、降雪地域であることから登園時や雪遊びで履き物や衣類が濡れることが多々ある。園児が雪に親しみ思いっきり活動する機会をつくとともに、降園後の保護者負担を軽減するためにも乾燥室は必要であるとした。また、洗濯室やシャワー室との位置関係も配慮すべきとの意見が出された。

### 4 検討会開催記録

回	日時・参加者数	協議事項
第1回	9月18日(水) 15:00～17:40 19名	○自己紹介 ○検討会の概要・スケジュール説明(教育長) ○保育における情勢説明 新潟県立大学人間生活学部子ども学科 小池由佳教授 ○協議 (1)津南町の目指す保育方針(保育ビジョン)の概要について (2)現ひまわり保育園の増改築、子育て支援センター併設に伴う機能について(グループ協議) ・保育(養護・教育)、保護者支援、職員の働き方
第2回	10月17日(木) 15:00～17:40 19名	○協議 (1)第1回検討会の確認 ①津南町の目指す保育方針(保育ビジョン)について ・修正点の確認 ②現ひまわり保育園の増改築、子育て支援センター併設に伴う機能と施設について(グループ協議、全体協議) ・保育(養護・教育)、保護者支援、職員の働き方 (2)現ひまわり保育園の増改築、子育て支援センター併設に伴う機能について(グループ協議、全体協議) ・地域子育て支援、公共施設、その他について
第3回	10月31日(木) 15:00～18:40 20名	○協議 (1)第2回検討会の確認 ①現ひまわり保育園の増改築、子育て支援センター併設に伴う機能と施設について(グループ協議、全体協議) ・地域子育て支援、公共施設、その他について (2)現ひまわり保育園の増改築、子育て支援センター併設に伴う設備について(グループ協議、全体協議)

		①提案された設備について ②これまで出された施設・設備についての優先度について (3) 津南町保育園環境整備のための検討会のまとめ方について
第4回	11月14日(木) 15:00~18:00 20名	○協議 (1) これまでの検討の確認 ①津南町の目指す保育方針(保育ビジョン)について ②現ひまわり保育園の増改築、子育て支援センター併設に伴う機能について ③現ひまわり保育園の増改築、子育て支援センター併設に伴う施設と設備について (2) 津南町保育園環境整備のための検討会のまとめ方について

## 5 おわりに

本検討会は、9月に第1回の会議を開催し、約2か月の中で計4回の会議を開催した。検討会では、検討内容の説明、グループ協議、全体協議、各回での協議内容の確認等、日程的に大変ハードなスケジュールであった。その中で、会を進行するとともにご助言いただいた新潟県立大学小池先生、子ども・子育て会議会長涌井様をはじめ、議員委員、保護者委員、園長・保育士委員、役場職員委員からそれぞれの立場で、大変有意義かつ建設的な意見、提言等をいただいた。特に、3グループでの協議は大変熱の入った話し合いとなり、各委員から園児や保育士、保護者等の立場を踏まえ、津南町の保育園での保育をどうすればよいものにできるか、そのための環境はどうあったらよいかを真剣に話し合う姿が見られた。一方で今後の建設に向かって、必要とする施設・設備に対して優先順位を考えるに当たっては、様々な思いへの対応と理想と現実の難しさを実感することにもなった。

本検討会での意見、提言等は、本報告書及び別紙を添付して提出する。今後、町が具体的な保育園整備方針を定め、基本設計・実施設計へと進めるにあたり、基本的な資料とし実現に向けて努力していただくことを強く望むものである。

最後に、大変ご多用の中、本検討会の座長として取りまとめとご助言をいただいた小池先生を初め、議員の皆様、保護者の皆様に衷心より感謝を申し上げ、本検討会のまとめとする。

令和6年11月

## 津南町保育園環境整備のための検討会委員名簿

No.	氏名	備考	
1	小池 由佳	新潟県立大学人間生活学部子ども学科 教授	座長
2	涌井 泰二	津南町子ども・子育て会議 会長	副座長
3	江村 大輔	津南町議会 副議長	
4	石田 タマエ	津南町議会 総文福祉常任委員長	
5	村山 郁夫	津南町議会 総文福祉常任副委員長	
6	滝沢 萌子	津南町議会 総文福祉常任委員	
7	藤木 瞳	ひまわり保育園 保護者代表	
8	縫殿 香苗	北部保育園 保護者代表	
9	小林 みさき	こばと保育園 保護者代表	
10	中島 由利	上郷保育園 保護者代表	
11	滝沢 加奈子	わかば保育園 保護者代表	
12	石澤 美香	ひまわり保育園 園長	
13	藤ノ木 直美	北部保育園 園長	
14	津端 礼子	こばと保育園 園長	
15	樋口 ゆかり	子育て支援センター センター長	
16	高浪 美和子	ひまわり保育園 主任保育士	
17	山田 歩美	北部保育園 主任保育士	
18	小林 義明	総務課企画財政班 班長	
19	石橋 克則	建設課土木班 班長	
20	小林 明日香	福祉保健課健康班 保健師長	

### 事 務 局

21	島田 敏夫	教育委員会 教育長	
22	高橋 昌史	〃 教育次長	
23	樋口 将洋	〃 子育て教育班 班長	
24	村山 拓也	〃 子育て教育班 主事	
25	涌井 稜	〃 子育て教育班 主事	

# つなんのみらい保育方針（保育ビジョン）

別紙 1

「強くてやさしい子」が育つ つなん

津南町が考える3つの「強くてやさしい子」

元気なこども／自分で考え、行動できるこども／自然大好き・津南大好きなこども

○主体的・創造的に遊び込めるこども ○友達のことを考えて助け合えるこども ○ひと・もの・自然とかわりながら感性を豊かにすることも

津南町保育所保育方針3つの柱

遊びを通して自ら学ぶ力や生きる力を育成

生涯にわたる人格形成の基礎を培う環境を整備

こどもの成長や子育ての喜びを共有

## 取組1 遊び・交流の充実

- 主体的な遊びの展開
  - ・こどもを主体とした遊び
  - ・同年齢・異年齢での遊び
  - ・五感を働かせた遊び
- こどもの声を活かす保育
  - ・こどもの興味・関心を活かす保育展開
- 津南の環境（ひと・もの・自然）を活かした遊び・交流

## 取組2 環境の整備

- 乳児保育の整備
  - ・おむつ交換等のスペース、調乳室等
- 多様な育ちに配慮した保育環境整備
  - ・インクルーシブな視点、個々への支援配慮の必要な子への対応
- 安全で活用しやすい施設設備の整備
  - ・年齢児対応・感染対策等
- 複数職員配置による保育の質の向上
  - ・業務負担の軽減・ICT活用
  - ・連携・協働体制の強化
- 適正規模のクラス運営
  - ・同年齢での活動の質の向上・個別支援

## 取組3 子育て支援の多機能化・拠点化

- 早朝・延長保育、土曜日曜保育等の拡充
- 臨床心理士・保健師による支援
- 子育て支援センターの併設
- 園児バスの活用
  - 通園の利便性、園外保育等の活用
- 誰でも通園制度への対応
- 災害時の子育て支援対応

## 取組4 こども育ち・子育て支援

- 保小連携体制の強化
  - ・保小交流(子・職員)・研修等
- 関係機関等との連携・共働
  - ・配慮の必要なかた等への支援
- 地域との交流
  - ・地域の人・自然・施設等

子育てしやすい町・こどもを育む町づくり

「津南町保育園環境整備における具体的な内容の提言」 2024年11月

※印は留意事項

分類	今後の整備における具体的な内容		
	求める機能	必要とする施設・設備	可能であれば設けたい施設・設備
保育（養護・教育）	<p>保育室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ こども・保育者等が安心・安全に過ごすことができる</li> <li>・ 多様なクラス編成に対応できる</li> <li>・ 遊びを継続できる</li> <li>・ ゆとりができる</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ こどもが気持ちを落ち着かせることができる（クールダウンなどができる）</li> <li>・ 特別な支援の必要なこどもが安心できる</li> <li>・ 障がいのあるこどもへの個別支援の配慮ができる</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵本等にふれることができる（保護者も一緒に）</li> <li>・ 園児の活動場所が確保できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 0歳児室約 87.5 m<sup>2</sup> (3.5×25) 1室</li> <li>・ 1歳児室約 87.5 m<sup>2</sup> (3.5×25) 1室 ※乳児室・ほふく室</li> <li>・ 2歳児室約 62.5 m<sup>2</sup> (2.5×25) 1室 ※未満児室には可動式の壁と床暖房等</li> <li>・ 多目的保育室（3～5歳児室のゆとり保育室や遊べる部屋）約 130 m<sup>2</sup> 1室 ※可動式の壁、行き来できる出入口</li> <li>・ 現3歳児～5歳児室 47.61 m<sup>2</sup></li> <li>・ フリールーム（仮称）1室 ※広さは、様々な部屋の配置による</li> <li>・ 図書・読書スペースの確保 ※運用の仕方の中で配置を工夫</li> <li>・ 園児用ロッカー、布団及び遊具等の収納スペース</li> <li>・ 教材室、倉庫</li> <li>・ 新園舎に4・5歳児も入れる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 着替えスペース（シャワー室に設置）</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>保育に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いじめの早期発見、対応</li> <li>・ 孤立しないように</li> <li>・ 非認知能力を生かした保育</li> </ul> </div> <p>※部屋の配置によって変わるため設計段階で要検討</p>

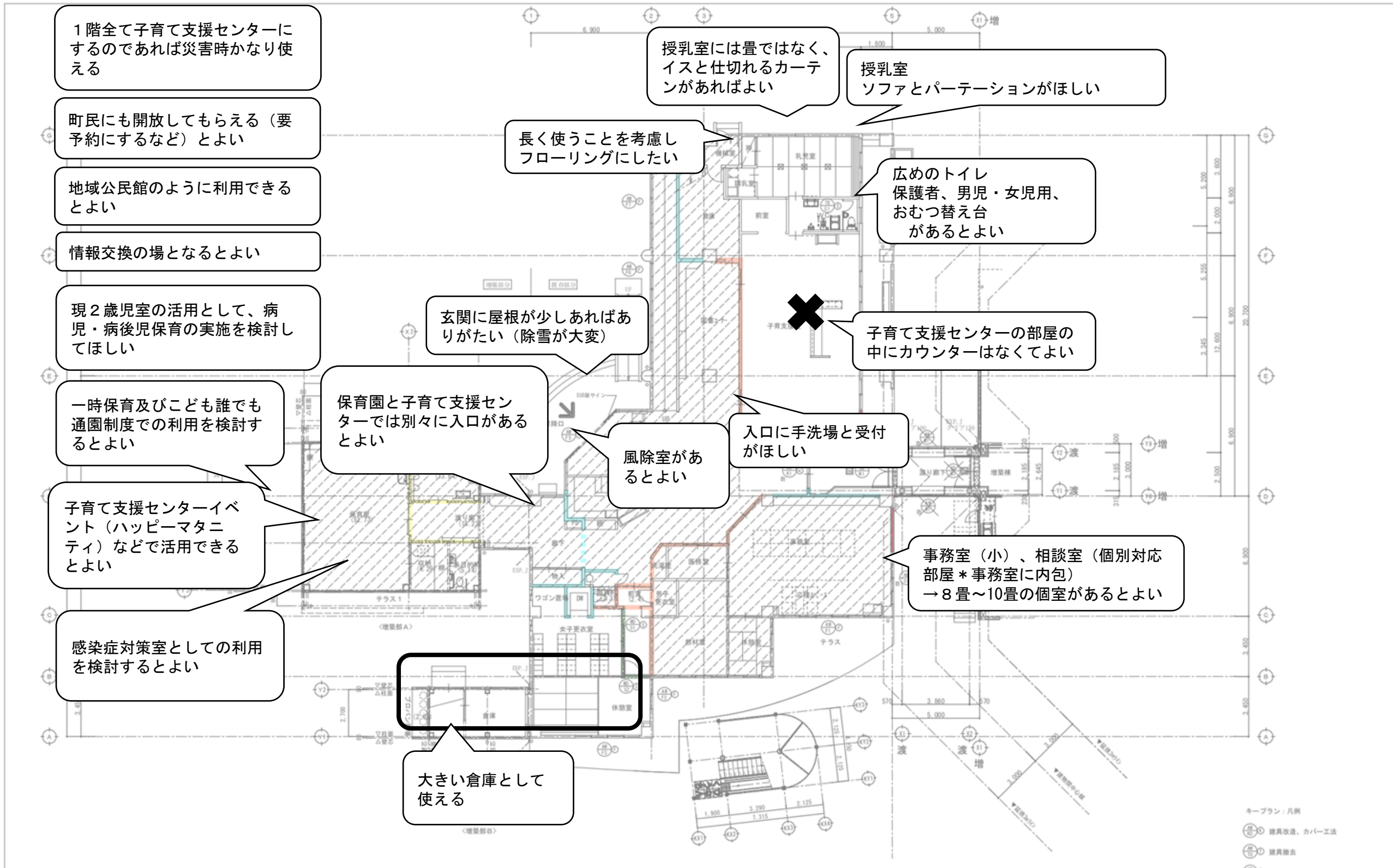
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未満児に対応した保育ができる</li> <li>・感染症対応ができる (感染対策ができる人数・部屋割り)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調乳室 (7.10 m<sup>2</sup>)</li> <li>・授乳室 (7.10 m<sup>2</sup>)</li> <li>・沐浴室 (12.66 m<sup>2</sup>)</li> <li>・おむつ替え室 (6.79 m<sup>2</sup>) ※広さは、様々な部屋の配置による</li> <li>・現2歳児室を活用</li> <li>・医務室 (8.76 m<sup>2</sup>) ※広さは、様々な部屋の配置による</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病児・病後児対応については、津南病院との関連も含め検討を継続</li> </ul>
	<p>ホール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育内容や行事に合わせて使うことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現遊戯室 (223.56 m<sup>2</sup>) の活用 ※空調整備</li> <li>・未満児及び多目的に使える小ホール (0・1歳児プレイスペース兼) 約 60～110 m<sup>2</sup>程度 ※収納スペース込み</li> </ul>	
	<p>トイレ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対応ができる</li> <li>・保育室、おむつ交換室の近く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女用の乳幼児用便器</li> <li>・年齢児に応じたトイレの設置</li> <li>・職員用の男女別トイレ</li> <li>・感染症専用トイレ</li> <li>・3～5歳児用トイレの増築 (新園舎2階) ※園児の使用に支障の出ない数の確保</li> </ul>	
	<p>園庭及び外構</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津南の自然を感じることができる</li> <li>・安心・安全に遊ぶことができる</li> <li>・遊び込むことができる (ワクワクできる環境・遊び場)</li> <li>・園庭で野菜等を栽培できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然豊かな園庭 (現植樹地) ※林のある園庭</li> <li>・未満児専用園庭</li> <li>・温水シャワー (外部から見えない配慮)</li> <li>・園の畑の確保 ※地域と管理の仕組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭の一部 (未満児専用園庭) の芝生化</li> <li>・プール増設 (現在使えるものは活用する)</li> <li>・小川、ビオトープ→こどもが作る</li> </ul>

	<p>給食</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生面の対応ができる（老朽化に対応できる）</li> <li>・地産地消の献立が提供できる</li> <li>・感染症対策ができる</li> </ul> <p>・お米の産地ならではの食育の重視</p> <p>・保護者の負担軽減ができる</p>	<p>給食室の新設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調理室、洗浄室、下処理室、検収室、前室2、食品庫、配膳車プール、洗濯室、厨房風除室、厨房事務室、休憩室、厨房トイレ、ゴミ庫</li> <li>※0歳児から5歳児 約140人</li> <li>職員 約70人 計 約210食分</li> <li>※アレルギー対応のため配膳時の動線の確保</li> </ul> <p>・主食（米飯）の提供のできる設備</p>	
保護者支援	<p>保護者支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と個別に面談・相談等ができる</li> </ul> <p>通園体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に送迎することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談室の設置 1室</li> <li>・駐車場及び動線の確保</li> <li>・園児入退所玄関</li> <li>・事務室と隣接した玄関</li> </ul>	<p>保護者支援についての意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早朝・延長保育の充実</li> <li>・土曜日曜保育の充実</li> <li>・病児・病後児保育の実施</li> <li>・低年齢からの受け入れ</li> <li>・遠方からの通園や祖父母の送迎に対する配慮</li> </ul>
職員の働き方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の福利厚生に対応ができる</li> <li>・保育士が心から笑顔でいることができる</li> <li>・業務改善ができる</li> </ul> <p>（統合により人的資源を集約できるため保護者の要望が可能になる）</p> <p>（頼めることは外注（シルバーなど）することで負担を減らす）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女別の更衣室、休憩室、トイレ</li> <li>※現給食室の活用方法も検討し、新園舎の配置により判断</li> <li>・事務室（職員が集まれる部屋） 1室</li> <li>※職員数に応じた規模</li> <li>※打合せスペース等の確保</li> <li>・PC・ネット環境・ICT等の整備</li> </ul>	

<p>地域子育て支援</p>	<p>子育て支援センターを併設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援への対応ができる</li> <li>・親子が保育園と交流できる</li> <li>・安心して相談できる</li> <li>・妊婦、乳幼児が安心して過ごすことができる</li> <li>・保育園との連携・協働ができる</li> </ul> <p>・保護者同士がくつろぎ、情報交換できる</p> <p>・子育てに関する講話、学びとなる行事の開催、交流の場等ができる</p>	<p>現ひまわり保育園 1 階の改修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務室 ※現事務室を使用</li> <li>・相談室→現事務室に内包</li> <li>・子育て支援室、調乳室、授乳室</li> <li>・広めのトイレ（保護者、男児、女児、おむつ替え台）</li> <li>・現 2 歳児室の活用（一時預かり・一時保育）</li> </ul> <p>・保護者の情報交換の場（運用面で工夫）</p> <p>・現 2 歳児室の活用（子育て支援センターイベント等）</p> <p>・離乳食実習など→保健センター 2 階調理室の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋根のついた入口</li> </ul> <p>・雨天時ものびのび遊べるスペース（めぐらんどのような）保育園整備とは別に検討</p>
<p>公共施設</p>	<p>エネルギー・空調等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境への対応ができる</li> </ul> <p>災害対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時に乳幼児を中心に家族で過ごすことができる</li> <li>・災害時でも多様な支援ができる</li> <li>・災害時に乳児を守ることができる（プライバシー含む）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設として環境へ配慮した施設 ※こどもの育ちや健康面への配慮</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女専用のトイレ</li> <li>・備蓄庫（発電機、おむつ、ミルク、お尻ふき、生理用品、水食料、ストーブ、毛布など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・断熱材の有効活用</li> <li>・内装だけ木質（採光・照明をしっかりと）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡易トイレ・炊事施設など</li> </ul>



<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ こどもの遊びの充実</li>   <li>・ 保護者が安心して送迎できる</li>   <li>・ 雪対策ができる</li>   <li>・ 安全に避難ができる</li>   <li>・ 建築構造</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 冬の動線（車から玄関）</li>   <li>・ 消雪パイプを配備した駐車場</li> <li>・ 雪対策でピロティが広め（玄関に送迎車が入れる屋根等） <ul style="list-style-type: none"> <li>※職員の除雪作業の軽減</li> </ul> </li> <li>・ 洗濯室、乾燥室 <ul style="list-style-type: none"> <li>※雨天時・雪遊び後等の対応</li> </ul> </li>   <li>・ 冬場の避難経路の確保（2箇所以上） <ul style="list-style-type: none"> <li>※屋根雪対策も含めて</li> </ul> </li>   <li>・ 設計時に経費も踏まえ検討が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 秘密基地的なエリア</li> <li>・ 水の流れのある池、自然のスペース</li>   <li>・ 除雪車が入れる駐車場</li> </ul>
------------	--	---	---



1階全て子育て支援センターにするのであれば災害時かなり使える

町民にも開放してもらえる（要予約にするなど）とよい

地域公民館のように利用できるとよい

情報交換の場となるとよい

現2歳児室の活用として、病児・病後児保育の実施を検討してほしい

一時保育及びこども誰でも通園制度での利用を検討するとよい

子育て支援センターイベント（ハッピーマタニティ）などで活用できるとよい

感染症対策室としての利用を検討するとよい

授乳室には畳ではなく、イスと仕切れるカーテンがあればよい

授乳室  
ソファとパーテーションがほしい

長く使うことを考慮しフローリングにしたい

広めのトイレ  
保護者、男児・女児用、おむつ替え台があるとよい

玄関に屋根が少しあればありがたい（除雪が大変）

子育て支援センターの部屋の中にカウンターはなくてよい

保育園と子育て支援センターでは別々に入口があるとよい

風除室があるとよい

入口に手洗場と受付がほしい

事務室（小）、相談室（個別対応部屋\*事務室に内包）  
→8畳~10畳の個室があるとよい

大きい倉庫として使える

キープラン：凡例  
 (○) 器具改造、カバー工法  
 (○) 器具除去